

12月18日（木曜日） 地域の方も参加～歌人岡野大嗣先生による短歌教室  
岬小学校



岬小学校では、昨年度に引き続き今年度も、歌人の岡野大嗣（だいじ）先生にご来校いただき、6年生を対象に短歌教室を開催しました。今回は、岬ふれあいセンターからの呼びかけで、短歌に興味・関心のある地域の方にも参加していただき、子どもたちと一緒に短歌づくりを体験されました。地域の方は、「子どもの豊かな発想や感性は素晴らしい」と、とても感心されていました。

岡野先生は児童一人ひとりに短歌づくりのアドバイスをを行い、「歌を作っているうちに何かに気づくという、短歌の一番楽しい部分を感じてほしい」とみんなに話されました。

また、授業後には、5年生以下の児童も、自分の作品を添削もらいたいと岡野先生を囲んでいました。

この短歌教室は、岬小の児童が岡野先生にファンレターを送ったことがきっかけで実現したものです。昨年度の短歌教室以降、岬小には児童有志による短歌クラブも結成され、短歌づくりに親しんでおり、中には短歌コンクールに応募するほどの腕前となり、入選した児童も出ています。

子どもも大人も一緒に学び合うこの短歌教室が、岬小と地域の特色ある取組として今後も継続されることを期待しています。

12月18日（木曜日） 「楠ふれあい会食会」で地域の方と交流  
万倉小学校



万倉小学校全児童が「楠ふれあい会食会（楠地区社会福祉協議会主催）」に参加し、楠地区（船木・万倉・吉部）のご年配の方々と楽しいひと時を過ごしました。

最初のステージで発表したマーチング演奏では、参加者の皆さんから大きな拍手をいただき、次にグループに分かれて行ったクイズ大会では、子どもたちが「くすくすの湯の大人料金は何円？」といった楠地区に関する問題を出題するなど、自分なりに考え、工夫している姿がとても印象的でした。

その後も、グループごとに福笑いやおはじき、お手玉、だるま落とし等の昔の遊びやトランプゲームが行われると、中には、上手なお手玉の技を披露してくださる方も現れ、子どもたちからも、「楽しかった。また来年もお会いしたい」という声が聞かれました。世代の違う子どもと高齢者がお互いに元気をもらい合う心温まる交流になりました。

12月13日（土曜日） 上宇部中学校生徒がビブリオバトルで大活躍！地域との協働で大成功  
上宇部中学校



「第3回ビブリオバトル」（上宇部地区社会教育推進委員会主催）が12月13日(土)に開催され、昨年に引き続き、上宇部中学校の生徒たちが発表者としてもスタッフとしても、大いに活躍しました。

11月27日(木)には、社教推委員が上宇部中学校で事前説明会を実施しました。その後は上宇部ふれあいセンターに通い、発表者となった生徒は原稿作成や発表の練習を重ね、またスタッフとなった中学生は横断幕や投票用紙の作成を進めるなど、発表会に向けて各々が社教推委員と準備に励みました。中には、友達に誘われ、途中から積極的にスタッフとして加わってくれた生徒もあり、生徒たちの自主的な活動の広がりが見られました。

当日は、中学生スタッフが受付、司会、タイムキーパーなどを担当する中、発表者6名は目標であった発表時間の「3分ジャスト」を目指しながら、練習の成果を存分に発揮し、白熱したバトルの結果、中学3年生が発表した『三日間の幸福』が見事今年度のチャンプ本に輝きました。

会長からは、発表者とスタッフに労いと感謝の言葉が伝えられ、特に発表者に対しては、「回を重ねるごとに内容がレベルアップしており、非常に聞き応えがあった。本の面白さを端的に伝える技術も素晴らしく、紹介されたジャンルも短編から映画化作品、古典までと多岐にわたっていた。今回の本との出会いをきっかけに、シリーズ本や同じ作者の作品など、読書の楽しさをさらに広げていってほしい」と、高く評価しました。

参加した生徒からは、「とてもよい経験になった。来年もぜひ参加したい」とあり、観覧した生徒の中には、「来年は発表者として参加します!」と意欲を見せる生徒もあり、この行事が今後も持続可能な地域と学校の協働活動になるよう、さらなる発展が期待されます。

12月10日（水曜日）小学5年生・中学2年生が熟議デビュー！黒石中学校区合同学校運営協議会  
黒石小学校



黒石中学校区（黒石中、黒石小、原小）では、第2回目の合同学校運営協議会が開催され、来年度にリーダーとなる小学5年生と中学2年生が、各校約10名ずつ参加し、委員や教職員と共に熟議を行いました。

熟議への導入として、まずは、第1回目で小学6年生と中学3年生が話し合った内容を振り返り、黒石中学校区の小中一貫グランドデザインについて説明を受けました。

熟議では、「中学を卒業するときに、どのような原っ子、黒石っ子になっていたいか」「そのために何を頑張るか」といった内容をそれぞれ付箋に書き出し、その理由も説明しながら大判紙に貼り付けていきました。

各グループは、大人が過半数を占めており、他校の児童生徒と一緒にいる構成でしたが、大人たちの温かいサポートもあり、児童生徒は堂々と自分の意見を発表していました。また、代表グループによる発表の際には、ほとんどのグループが積極的に挙手するなど、参加者の意欲の高さがうかがえました。

発表したグループからは、『計画性』『コミュニケーション能力』『挨拶』『思いやり』『地域行事への参加』といった、今後の成長に繋がるキーワードが具体的に挙げられており、今回のような、自分の考えを明確に伝え、大人の意見に耳を傾け、自らの考えを深め練り直すブレインストーミング（意見交換）は、児童生徒にとって有意義な経験となり、来年度のリーダーとしての自覚を生む、大きな一歩となりました。

12月6日(土曜日) 桃山中学校ボランティア部が地域清掃に貢献！  
桃山中学校





桃山中学校ボランティア部の1・2年生16人が、地域の清掃活動（宇部市環境衛生連合会新川支部主催）に参加し、主要道路沿いや渡辺翁記念会館周辺、宇部新川駅周辺、山口大学医学部周辺の3つのエリアに分かれて、環境美化に汗を流しました。  
生徒たちは火ばさみでたばこの吸い殻や空のペットボトルを拾い集め、竹ぼうきで落ち葉をかき集めるなど、熱心に取り組みました。特に、新川ふれあいセンター周辺はイチョウの葉が大量に散乱していましたが、皆、黙々と作業を続け袋いっぱいの落ち葉を集めていました。  
この清掃活動は、街路樹の落葉時期に合わせて例年実施されており、環衛連新川支部からの要請を受けて、数年前から桃山中学校の生徒も参加協力しています。今回は地域住民の方々の参加が例年よりも少ない状況であったことから、若い中学生たちの力は地域にとって大きな助けとなりました。

11月27日（木曜日） 厚南中学校区「拡大きれいにしちゃいたい」を実施！～地域と学校が連携し、ふるさとをきれいに～  
西宇部小学校



厚南中学校区の3校（厚南中・厚南小・西宇部小）が連携し、地域住民、児童生徒、保護者が一体となって取り組む試みとして、「拡大きれいにしちゃいたい（3校合同清掃活動）」が初めて実施されました。  
これまで、厚南中が行っていた清掃活動に地域の参加者が少なかったことから、夏休みに実施された「3校合同の拡大学校運営協議会」で、児童・生徒・学校運営協議会委員・教職員が「地域の方に参加してもらうにはどうすればよいか」について熟議を行い、情報発信の方法等について出た意見をもとに、学校だより等で地域へ参加募集を行い、厚南小・西宇部小児童にも参加を呼びかけ、実現しました。  
活動当日には、厚南中の生徒が各小学校にそれぞれ出向き、西宇部小では、5・6年生の希望者や放課後児童クラブの児童とともに、約30分間、ごみ拾いや落ち葉拾いに取り組みました。  
参加者は全体で約200名にもなり、“地域をきれいに”という共通の目的のもと多様な世代が協力し合うことで、地域への愛着を育み、世代を超えたつながりを深める、まさに「実り多い」一日となりました。  
今後もこのような活動が継続され、地域と学校が一体となった教育環境づくりが一層推進されることを期待しています。

11月25日(火曜日) 楠中生が挑む、匠の技！～赤間硯制作「縁立て」編～  
楠中学校





楠中学校では毎年、2年生が県指定無形文化財保持者の日枝敏夫氏から指導を受け、地域の伝統工芸である赤間硯の制作に取り組んでいます。

第1回目は、赤間硯の歴史や、原石の採掘から制作に至るまでの流れについて学びましたが、第2回目からは、いよいよ実技の始まりです。硯の縁を彫り上げる「縁立て」作業に取り組み、生徒は、実際に使われる鑿（ノミ）を手に取り、浅く少しずつ線を彫り始めました。「力がある、なかなか削れない」と苦戦する声が上がると、日枝氏が実演しながら分かりやすく指導される場面もあり、生徒はめったに見られない匠の技に、息をのんで見入っていました。実演が終わると、自然と大きな拍手が湧き起こり、その感動が教室中を包み込みました。その後、生徒は夢中になって作業を進め、日枝氏とお弟子さんから熱心な指導を受けながら、黙々と鑿（ノミ）を動かしていました。当初の戸惑いも消え、引き締まった顔つきで、作業に没頭している様子がとても印象的でした。

この赤間硯制作体験は、楠中学校ならではの貴重な学びの機会となっています。地域の伝統工芸の継承に貢献するだけでなく、ものづくりの難しさや奥深さを肌で感じ、生徒一人ひとりの「楠中生としての誇り（楠中魂）」も育んでいます。次回の制作活動にも、さらなる成長が期待されます。

11月20日(木曜日) 地域・保護者ボランティアによる環境整備  
琴芝小学校



琴芝小では、学校支援ボランティアの募集を学校だより等に載せることで、地域や保護者の方に広く募り無理なく続けられる琴芝小ならではの参加しやすい仕組み作りを進めています

第1回目は、グラウンド周辺の垣根の清掃、第2回目は、普段手の行き届かない図工室や児童用昇降口等の清掃を行い、いずれも7、8名の自主的な参加がありました。

体育の授業では、学校連絡ツール「シグフィ」で募集した保護者の方々に初めて水泳の見守りをさせていただくことができ、事故もなく無事に終わることができました。

また、高学年児童は地域や保護者の方の姿を見て自主的に朝掃除を行っており、きれいな環境の中で学び・遊び・過ごすことができることに、感謝の気持ちをもつ児童が育まれています。

今後も、学校だより等で募集を続けながら、継続的な活動にしていこう予定です。

11月19日(水曜日) 感謝を込めて、世界に一つだけの花を～見初小学校 2分の1成人式～  
見初小学校



見初小学校では、地域の方を講師にお招きし、4年生がフラワーアレンジメント作りに挑戦しました。これは、翌日に開催する「2分の1成人式」で保護者の方に贈るためのものです。

ルスカス、デンファレ、カーネーションなど、色とりどりの美しい花材を前に、子どもたちは笑顔で作業に取り組み、「どうしたら保護者の方に一番喜んでもらえるだろう」と真剣な表情で考えながら、花の色合いや高さ、主役となる花を工夫し、世界に一つだけのアレンジメントを心を込めて仕上げていきました。

そして、11月19日（水）当日、待ちに待った「2分の1成人式」を迎え、子どもたちは、これまでの学校生活をスライドで振り返りながら、成長した姿と保護者の方への日頃の感謝の気持ちを伝えました。また、一人ひとりが心を込めて書いた手紙と、前日に作り上げたフラワーアレンジメントが保護者の方に手渡されるなど、会場は終始温かい感動に包まれ、子どもたちの成長と、それを見守ってきた保護者の皆さんの深い愛情が伝わる、心温まる素敵な式典となりました。

11月18日(火曜日) 4校合同クリーン大作戦  
厚東川中・厚東小・小野小・二俣瀬小学校





厚東川中学校区の4校（厚東川中・厚東小・小野小・二俣瀬小）が、各小学校区に分かれて小中合同で地域貢献活動を行う「地区児童生徒会」で、“4校合同クリーン大作戦”を実施しました。

これは「地区児童生徒会」による初めての活動で、中学校区での合同学校運営協議会でクリーン大作戦の内容についてさまざまな協議を重ね、実施に向けて準備を進めてきました。

当日は、3小学校区で、中学生を中心に小学生・保護者・地域の方が一緒にグループになり、ふれあいセンター、通学路、八幡宮、駅、ピオトープ、公園、梅林等の清掃に取り組みました。特に、地区長の中学生がリーダーとなって、はじめの会の進行やめあての設定、活動内容の確認をし、小学生の作業もフォローするなど大活躍でした。

学校周辺がきれいになるだけでなく、子どもたちと地域の方々の交流も深まり、小・中学生の成長も感じられるとても有意義な活動でした。「地区児童生徒会」の取組が、今後さらに発展し、継続されることを期待しています。

11月8日（土曜日）川上地区三世代ふれあいフェスティバル開催！～地域の絆を深める一日  
川上小学校



毎年恒例の「川上地区三世代ふれあいフェスティバル」が、川上小学校を会場に今年も開催され、地域住民、保護者、そして中学生ボランティアの皆さんの温かい協力のもと、多くの参加者で賑わいました。

今年のテーマは「ここをつなぐ遊び・技・知恵をつなげよう」で、地域の方々が先生となり、子どもたちは昔遊びや竹とんぼ作り、百人一首（かるた）、さらには伝統的な台唐（ダイガラ）を使った餅つきなど、多彩な体験をしました。

また、5年生は1年生と一緒に地域内の史跡や神社を巡り、調べて分かったことや考えたことなどの地域学習の成果を、保護者や地域の方々の前で発表しました。

このような体験を通して、子どもたちは地域の歴史や文化を学び、また地域の人々との温かい触れ合いを通して、ふるさとへの愛着と誇りをより一層深めることができたことでしょう。世代を超え、地域が一体となって子どもたちの成長を育む、素晴らしい一日となりました。

10月28日(火曜日) 地域ブースも盛り上がったウオークラリー集会！  
新川小学校





新川小学校では、毎年、全校児童が縦割り班に分かれて、体育館や教室でウオークラリーを実施しています。今年も、子どもたちは各班でスーパーボールすくいやペットボトルのボウリングなど楽しいゲームのブースを作り、班のみんなと学年を超えて仲よく楽しくブースをまわりました。

また、体育館では、集会委員会の考えたゲームに加えて、地域のボランティアの方によるモルックや輪投げなどのブースも用意され、にぎやかな交流になりました。

事前に、地域学校協働活動推進員が中心となって地域ボランティアに声をかけ、昨年度よりも多くの方に協力いただけたことで、ゲーム数も増え大いに盛り上がりました。

10年以上続く恒例の学校行事ですが、常に見直しと改善を行い、地域と学校がともに連携・協働しながら、子どもたちの豊かな体験を生み出しています。

10月21日(火曜日) 1～3年生の学級代表も参加した学校運営協議会  
神原中学校



神原中学校の第2回学校運営協議会には、今年度から生徒会執行部に加えて、1～3年生の学級代表生徒も参加し、総勢24人の生徒が参加しました。また、意見交換のグループ数も8つに増え、教職員9人も参加した活気のある学校運営協議会となりました。

意見交換の内容は、①「神原中学校の魅力」 ②「地域や社会をよりよくするためにできること」 ③「地域にあってほしい行事等」の3つで、SWOT分析の手法を用いて“強み”と“弱み”を付箋に書き出しながら分類し、よいところ（強み）を伸ばし課題（弱み）を解決するための手立てを考えていきました。

その中で、「地域にあってほしい行事」として、オールナイトテニスやお泊り会、ドッジビー大会、防災キャンプ等が候補としてあがり、これらの案を各クラスに持ち帰り改めて生徒たちで検討していくことになりました。

今回、学級代表生徒は各クラスに意見交換の結果を知らせるというミッションが生まれました。こうした工夫により、一部の生徒の意見交換だけで終わることなく結果が全校生徒に伝わることで、全ての生徒が関わるきっかけとなることでしょう。学校や地域の課題を自分事として考えていく生徒が育っていくことを期待しています。

10月18日（土曜日） 全校一斉の地域学習開催！～「西岐波わくわく祭り」～  
西岐波小学校



西岐波小学校では、土曜日に開催された「西岐波わくわく祭り」の中の「西岐波発見タイム」で、「西岐波地区の方をお招きして学ぶ」を共通テーマに、各学年が趣向を凝らした学習に取り組みました。

1・2年生：「昔遊び」  
地域の昔遊びの達人から、ケンケンパ、ゴムとび、福笑いといった遊びのコツや工夫を教えてください、一緒に日本の伝統文化を楽しみました。

3年生：「西岐波みかん」  
みかんの生産者の方々が、みかんや作業用具をご準備くださり、おいしいみかんが育つ秘密や収穫までの作業について貴重なお話をしてくださいました。

4年生：「西岐波地区の防災」  
自主防災会の方々がパネル写真や防災グッズを用いて、地域防災への願いと具体的な取組を紹介してくださいました。

5年生：「西岐波音頭」  
地域の方から、西岐波らしさあふれる歌詞に合わせた踊りをご指導いただき、全員で繰り返し踊って地域文化に触れました。

6年生：「戦争中の宇部市や西岐波のようす」  
地域の方が当時の写真やご自身の経験談を交えながら、宇部空襲の様子をお話しいたき、子どもたちは平和の尊さを深く学びました。

この「西岐波発見タイム」を通して、子どもたちは地域の歴史や文化、産業について学習しただけでなく、そこに暮らす人々の思いや心の温かさにも触れ、学びをさらに深めることができました。

地域の方々が先生となり、子どもたちが地域の一員として学び、体験する場を提供して下さったことは、西岐波小学校の学校教育目標にある「ふるさとを愛し」という言葉を具現化した素晴らしい取組です。子どもたちの西岐波地区への関心と愛着はより一層高まったことでしょう。

10月18日(土曜日) 保護者も参加する参観日の熟議！  
原小学校



原小学校では、土曜参観日に、6年生が地域・保護者の方と一緒に熟議をしました。

学校運営協議会と同じように、「心」（自分や人を大切にする）・「学」（主体的に学ぶ）・「体」（明るく元気に生活する）の3部会に分かれての実施となり、熟議のテーマは「原っ子宣言」の現状を把握するために実施した全校アンケート結果についてでした。主な内容は次のとおりです。

①「心」：挨拶シャワー大作戦の結果は、1.2年生が元気よく挨拶していた。挨拶をする人とならない人に分かれている。

②「学」：宿題も自主学習も、自主的に取り組むが7割、言われてから取り組むが2割だった。

③「体」：メディアの時間は、3時間以上が多い。6年生が長い。

これらのアンケート結果を受けて、熟議の中で現状に対する採点（100点満点）を行い、よいところと課題について児童と保護者でそれぞれが話し合いました。互いに採点理由などを説明し合い、保護者の意見は、児童によって大判用紙に書き込まれ、最後に、地域の方に感想を述べてもらい、皆で課題について話し合いました。

どのグループも大人の熱弁が聞こえ、児童は真剣に耳を傾けていました。児童にとっても保護者にとっても、お互いの意見を聞き合う貴重な機会になり、地域の方にとっても子育て世代の考えを聞くことのできる有意義な時間となりました。

10月11日(土曜日) 学校・地区合同運動会に短大生がボランティア参加！  
万倉小学校





雲一つない秋空の下、万倉小学校と万倉地区合同の大運動会が開催されました。大会ボランティアとして参加してくれた山口芸術短期大学の学生7名は、準備や後片付けだけでなく、子どもたちと一緒に走ったり係活動を手伝ったりと、大活躍でした。メンバーの中には教職を志望している学生もあり、子どもたちへの声かけがスムーズで、子どもと接する姿勢がとても前向きなので、ムードメーカーとして、大会を大いに盛り上げてくれました。今年度、万倉地区コミュニティ推進協議会からの要請で実現したこの山口芸術短期大学の学生ボランティアは、4月のつつじ祭り、8月の楠中校区合同学校運営協議会にも参加しており、万倉小学校と万倉地区の活性化に大きく貢献しています。市内出身の学生もあり、社会貢献の一つとして若い力が地元で大いに発揮されています。

9月18日(火曜日)～10月10日(火曜日) 1年技術科（木工分野）ボランティア  
黒石中学校



1年生が技術科の木工の授業で、家庭で使える木工作品（本立て等）の制作を行う際、地域の方に作業の補助や安全確保のための支援をしていただきました。生徒は担当教員の指示を受け作業を行います。ボランティアの方の見守りにより、スムーズに作業が進み、けがもなく安全に授業を行うことができました。技術科のように進度に個人差が生まれやすい教科においては、困っている時の適切な支援やアドバイスはとても有効です。生徒の感想には、「地域の方が手伝ってくれたので、心強かったです」「作業が遅れていたけれど、ボランティアの方がアドバイスをくれたので、時間内に完成しました。とてもありがたかったです」「安全に作業を進めることができました。本立てを家で早く使いたいです」とあり、作品の完成の喜びと相まって、地域の方への感謝の気持ちが一層強くなったようです。

10月7日(火曜日) 地域連携教育担当者研修会  
社会教育課





ときわ湖水ホールにおいて、学校づくりと地域づくりの関係者が一堂に会する「地域連携教育担当者研修会」を、県教委と合同で（新たに）実施しました。

これは、昨年度まで実施していた「宇部市地域学校協働活動研修会」と、今年度新設した「宇部市地域学校協働活動推進員連絡会議」「宇部市社会教育推進委員会連絡会議」を兼ねて行ったものです。

前半は、4団体に各2回発表していただき、参加者はその中から2つを選んで聴講しました。

内容は、

- ・船木地区社会教育推進委員会「船木地区社会教育推進委員会/R6年度活動実績」
- ・二俣瀬小学校学校運営協議会「小規模校を強みに変え、学校・地域の課題を解決する地域連携活動」
- ・恩田地区社会教育推進委員会「仲間とともに、子どもたちと楽しみ育ちあった、四半世紀を振り返る」
- ・厚南中学校学校運営協議会「生徒会を主体とした地域貢献活動」

の4つです。それぞれのブースでは、発表者の熱意あふれる発表内容を参加者が熱心に聴講し、質疑応答も行われました。

後半に行われたグループディスカッションでは、「未来へつなげよう！地域・社会のために私たちができること」をテーマに、どのグループも活発な情報交換や協議が進められ、会場が熱気に包まれました。

また、実施後のアンケートには、「5年先、10年先を見越した未来志向の体制構築に向けて多様な立場の方々と意見を交換しながら進めていきたい」「どの地区でも、高齢者と若い人（子ども）とのつながり、そして伝統を継承していくことが大切であると感じていた」「社教推の立場を明確にして、子どもと地域をつなぐ活動を考案していきたい」といった感想が寄せられていました。

これらの貴重な感想や意見を参考に、来年度に向けてさらに充実した研修会にしていきたいと思います。

10月7日(火曜日) 伝統文化継承へ、迫力の神楽舞  
楠中学校



楠中学校では、全校生徒が岩戸神楽舞保存顕彰会の方による体験授業を受けました。これは、生徒たちに地域の魅力や伝統文化を知ってもらい、その継承への関心を高めることを目的として昨年度から始まったものです。

授業では、神楽舞の歴史や舞の順序を学び、剣・姫・鬼の3種類の舞を鑑賞しました。楽器の音と融合した迫力ある舞を生で見ることができ、貴重な体験となりました。

また、放課後の体験学習では、実際に衣装や採物、太鼓などに手を触れ、舞の基本を学ぶこともできました。

約280年前から伝わるこの岩戸神楽舞は、担い手不足により2008年を最後に奉納が途絶えていましたが、復興委員会が立ち上がり、その後保存顕彰会となって市内外の会員により現在まで継承されています。地域の魅力を若い世代（楠中生）が後継者（担い手）として、引き継いでいってくれることを期待しています。

10月7日(火曜日) 波雁ヶ浜松林保全活動  
東岐波小・中学校





東岐波小学校4年生と東岐波中学校1年生が、地域の方と一緒に岐波の松林を守るために、松の葉を集める清掃活動を行いました。  
この活動は、奉仕の心や郷土への愛着を育むことを目的に、総合的な学習の時間の一環として2019年度から小中合同で行っています。  
松林を管理・保全している地域の方から、歴史や海水浴でにぎわった昔の様子、松露という珍しいキノコの話などを聞いた後、児童と生徒混成のいくつかのグループに分かれて、落ち葉や枯れ枝を集める活動を行いました。  
子どもたちからは、「地元への誇りがもてた」「清掃活動で達成感を味わった」といった嬉しい声も寄せられ、清掃を通じて地域の自然に触れ、故郷の魅力の再発見につながる貴重な体験となったようです。

9月30日(火曜日) 豆腐作り～大豆の味を満喫  
恩田小学校



恩田小学校では、3年生の国語科「すがたをかえる大豆」の授業の一環で、クラスごとに栄養教諭や恩田地区おひさまクラブの皆さん、愛育会の保護者の皆さんからアドバイスをいただきながら、大豆からお豆腐ができるまでの工程を学びました。  
子どもたちは、グループで協力し、手作り豆腐とおからパンケーキを作って味わいました。大豆をミキサーにかけることなど、初めて行うことも多く、とても楽しそうに取り組んでいました。  
教科書の説明文で学んだことを実際に体験することで、子どもたちは実感をともなってより深く文章を理解することができたと思います。また、地域や保護者の方々にサポートしていただくことで、より安全で楽しい体験となり、子どもたちの学びが広がりました。

9月27日(土曜日) 朝食レシピ表彰式  
厚南小学校



厚南小学校では、記念すべき10回目となる「我が家の簡単☆朝食コンテスト」を実施。  
今回は、10回目を記念して部門賞も10部門に増設。地域学校協働活動推進員が厚南中学校区の厚南中学校や西宇部小学校、宇部商業高校を訪問してコンテストの案内をするなど募集範囲を広げました。宇部商業高校からは90点近くもの応募があり、回収も地域学校協働活動推進員が行いました。  
その結果、応募総数は527点にのぼり、その中から受賞者が決定し、9月27日の愛校バザーのオープニングで表彰式が行われました。多くの人々が見守る中、学校運営協議会会長から賞状が授与されました。  
「我が家の簡単☆朝食コンテスト」は、「食生活の改善」という課題の解決に向け、学校運営協議会がPTAと連携・協働した形で取り組んできました。その間、社会の状況に応じて、PDCAサイクルを意識しながら、少しずつ形を変えながら継続されてきました。  
今回は、4校分のレシピパネルも作成され、それぞれの学校で展示される予定です。これからも、簡単な朝食を作ってみたり、料理を通して家族の会話を弾ませたりと、創意工夫されたこれらのレシピがどんどん日常生活に取り入れられることを期待しています。

9月27日(土曜日) 小野小を語る会  
小野小学校





小野小学校では、授業参観の後、保護者、中学生、地域の方々等50名ほどが集まり、さまざまなテーマで意見交換をする「小野小を語る会」を初めて開催しました。

例年、地域の方に協力いただいていた除草作業が、今年度から業者委託になり、業務の効率化が図られる一方、地域コミュニティとして地域住民がつながり集い合う機会が失われることを懸念する声が寄せられたことから計画実施されたものです。地域とのつながりをより深める活動について子どもと大人と一緒に語り合うことで、地元住民としての思いや地域の歴史、伝統等を知り、受け継ぎ発展させてくれることが期待されます。

テーマには、「小野地区文化祭への参画」「地域の方と一緒に学習する機会」「小野科（総合的な学習の時間）の学習を深めるために」があり、熱気あふれる会になりました。

当日は、児童が収穫し熟成させた梅ジュースのおもてなしもあり、味覚・嗅覚でも小野のよさを実感することができました。

また、小野小児童と地域企業とが協同で完成させた「小野小ブレンド茶」の販売発表もありました。レモングラスと小野茶のバランスが絶妙なさわやかなお茶で、最後はみんなで乾杯をしました。

地域の方々は笑顔になって帰られ、子どもたちもこれからの学習や地域貢献に対する意欲が高まったそうです。

小野小に関わる人々が一堂に会して、自分たちの学校について語り合う様子は、まさに地域を愛する心を育む多世代交流そのものです。子どもたちにとっても、力強い応援団を得て、一層学びに磨きがかかることでしょう。

9月26日(金曜日) 「地域ブース」も参加！見初まつり大成功！  
見初小学校



今年の見初まつりは、保護者の方、地域の方、そして近くの幼稚園の年長さんをお招きしての開催となり、子どもたちもこの日を心待ちにしながら準備に取り組みました。また、より多くの来校者に楽しんでいただくために「地域ブース」を新設したいという意見が教員から出され、その依頼が地域学校協働活動推進員に届けられました。

その結果、地域の方による企画「ワニワニ退治でポン」のブースが誕生しました。見初まつりの会場は、子どもたちの元気な声とたくさんの笑顔であふれ、盛況のうちに終了しました。

子どもたちの感想には、「今回は地域の人も参加していて、楽しかったし、みんなで協力しながら店番をできて、よかったなと思いました」「ぼくが今日よかったなと思ったことは、幼児の人や大人の方に優しく対応できたことです。店番をして、お客さんが笑顔になっていて、ぼくも心があたたかくなりました」とあり、様々な世代や地域の方との交流ができたことの満足感や達成感を得たことが分かります。

教員の側から地域の力を借りたいという声上がるのは、日頃から学校と地域の信頼関係が構築されている証しです。

幼保小連携と地域連携が同時に実践され、子どもたちの学びがさらに深まり充実したものになりました。

9月12日(金曜日) 「鵜ノ島子ども隊」3・4年生が清掃活動！  
鵜ノ島小学校





鵜ノ島小学校では、今年度3年生と4年生が「鵜ノ島子ども隊」の黄色いビブスを着用して、地域の清掃活動を行いました。総合的な学習の時間の中で、地域の環境について学ぶために行われたのですが、地域を改めてよく知る機会にもつながりました。鵜の島ふれあいセンターを通して、地域の方々にも参加・協力いただき、皆が協力して、鵜の島地区をきれいにしようという思いで活動しました。

令和4年度から、5年生と6年生が地域の行事で着用を始めた「鵜ノ島子ども隊」の黄色いビブス。地域を愛する心は、高学年児童から中学年児童へと受け継がれ、年度を重ねるごとに、その活躍の輪が広がりを見せています。

今後、「鵜ノ島子ども隊」での経験が、藤山中学校の「ヤング自治会」や「地域元気応援隊」の活動につながっていくことを期待しています。

### 9月11日(木曜日) ナップザック作りでミシンボランティア大活躍！ 小羽山小学校



小羽山小学校では、6年生が家庭科の授業で、10月21日～22日の修学旅行に持って行くナップザックを製作しています。地域ボランティア4名の方に支援していただきながら、しつけやミシンかけを行いました。子どもたちは、5年生の時にミシンかけを経験していることもあり、大きく戸惑うことはなかったようですが、縫いすぎてほどく場面もあり、地域の方や友達に助けをもらいながら、目標としていたところまで仕上げることができました。

子どもたちからは、「ミシンの使い方を教えるために地域の人たちが来てくれました。優しく丁寧に教えてくださったので、ミシンかけが早く終わりました」「僕は裁縫が苦手だったけれど、地域の方が上手に教えてくださったから、ミシンかけが上手にできました」と感謝の声が聞かれました。

今回のボランティアは、担任からの要望を受けて、地域学校協働活動推進員が地域に声をかけ人を集めて実現しました。

ボランティアの方々のおかげで、子どもたちは順調にナップザックの製作を進めることができます。子どもたちは、感謝の思いも込めて仕上げ、その思いも背中に背負って修学旅行に向かうことでしょう。

### 9月1日(月曜日) 3年「ときわ学」段ボールベッドの組み立て動画公開！ 常盤中学校





常盤中学校では、5月に3年生が総合的な学習の時間「ときわ学」の一環で、地域の自主防災会の方々に出前授業をしていただきました。1組は避難所の段ボールベッド、2組は簡易トイレ、3組は防災バック、4組はフェーズフリー（※）について学びました。  
その内容を参考に、9月には宇部市の備蓄品にもなっている段ボールベッドの組み立て動画が、生徒により制作されました。  
動画のエンドロールには、「この動画は、総合的な学習の時間（ときわ学）の成果物として制作しました。地域の方から出前授業で段ボールベッドのメリット等を教えていただきました。他の地区の方にも参考になれば幸いです。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。」と生徒たちからのメッセージが添えられていました。  
常盤中学校ホームページ上に公開（10月末までの期間限定）されていますので、ぜひご視聴ください。

※フェーズフリー  
「日常時」と「非常時」を分けずに、普段使っているモノやサービスを災害時にも活用できる防災の考え方

7月22日(火曜日)～8月22日(金曜日) 夏休みラジオ体操大作戦！  
藤山小学校



藤山小学校では、5月の学校運営協議会の「体」部会で話題に上がった「児童と地域の方と一緒にラジオ体操をすること」が、この夏休みに実現されました。会場を昨年までの藤山ふれあいセンターから藤山小学校の体育館横の広場に変えて、7月22日から8月22日までの23日間にわたり、実施されました。  
地域学校協働活動推進員が中心に計画を進め、児童もチラシ作り等の広報活動を手伝いました。ラジオ体操開催期間中は、延べ3,206名、毎日およそ140名もの参加があり、毎朝8時30分から、児童はもちろんのこと、保護者、地域の方、中学生も参加して、録音した当日のご当地ラジオ体操を聞きながら、皆で元気よく体を動かしていました。  
地域の方からは、「元気な子どもたちと一緒に体操ができて、いろいろな年代の方とも触れ合えて、とてもよかった。」「朝、体を動かすことで一日、元気に過ごせた。また、来年もぜひ開催してほしい。」といった感想が、子どもたちからは、「暑かったけれど、毎日、みんなと体操して、すごく楽しかった。来年もしたい。」「夏休みになっても、生活リズムを乱すことなく生活できた。」といった感想が聞かれました。  
地域のおじいちゃん・おばあちゃんから温かい声かけられると、答える子どもたちもとても柔らかい表情になり、それを見ている周りの大人も嬉しくなるほどだったとのこと。  
地域の温かさ、すばらしさを感じながら、充実感のある「やってよかった！この夏の取組」となったようです。